

**持続可能な地域社会の実現に向けた
地域金融機関の取り組み
～肝付町との連携事例～**

**2020年1月18日
鹿児島銀行 経営企画部
サステナビリティ推進室**

- 1. 地域循環共生圏とは**
- 2. 地域金融機関との関係**
- 3. 肝付町との連携状況**
- 4. ESG金融促進事業について
(取り組みの経緯、肝付町モデル概要、当行の検討課題)**
- 5. 最後に**

1. 地域循環共生圏とは

概念

各地域が美しい自然景観等の地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合うことにより、地域の活力が最大限に発揮されることを目指す考え方

地域の課題

社会

- 少子高齢化・人口減少
- 大規模災害対策 など

環境

- CO2排出削減
- 森林・里山の荒廃
- 生物多様性保全 など

経済

- 地域GDP低下
- 生産性向上 など

環境・経済・社会の統合的向上が必要

自立分散（オーナーシップ）

各地域が自立し、責任と権限を持つ

相互連携（ネットワーク）

県単位ではなく、地域連携する

循環・共生（サステナブル）

地域資源を活用し、自然と共生する

持続可能な地域社会の実現

地域金融機関における、各種取り組みとの関係は？

2. 地域金融機関との関係

鹿児島銀行の重要課題

環境にやさしい 地域づくり



全ての人を支える 地域の基盤づくり



全ての人が活躍する 職場・地域づくり



地域に必要とされる 組織づくり



SDGs視点での取り組み

地域課題

環境問題

人口減少・少子高齢化の加速

顧客ニーズの多様化
顧客行動のデジタル化

業態を超えた競争・競合環境激化

金融緩和・低金利の継続

地政学リスクの増大

ESG経営の徹底

Environment

Social

Governance

地域貢献

顧客志向

健全経営

企業活力

企業理念

目指す姿

持続可能な地域社会の実現

CSV（共通価値の創造）の実現

地域におけるSDGs意識の醸成
地域課題の解決

地域循環共生圏の考えは、
地域金融機関における地域活性化、地方創生への取り組みに合致

3. 肝付町との連携状況

2018.4.6

肝付町、鹿児島銀行にて「地方創生連携協定」締結



環境

環境省「ESG金融促進事業」

今回ご説明

- 地域課題解決型グリーンプロジェクトの発掘
- 金融機関のESG案件の事業性評価プロセスの構築、ノウハウ取得

交通

経済産業省「パイロット地域事業」

- 交通系キャッシュレスの先進モデル実証地域に選定（広域MaaS事業）
- 実証成果の周知・普及

宇宙

九経連「内之浦射場活用研究会」

- 内之浦射場を活用したオール九州での宇宙産業振興
- 肝付町及び九州経済研究所起案による設立。当行も会員として参画

PFI

「若者定住促進住宅」整備

- PFIによる「若者定住促進住宅」の整備

観光

「コスモピア内之浦」管理運営

- 鹿児島ディベロップメントによる指定管理

4. ESG金融促進事業（取り組みの経緯）

肝付町の取り組み

「再生可能エネルギービジョン」に基づく、町ぐるみでの脱炭素への取り組み
～豊かな自然資源を活用した、再生可能エネルギー事業の更なる推進
～最終的には地域の活性化を目指す取り組み



課題

電力会社における送電系統の余力がない状況
～「電源接続案件募集プロセス」が実施されるも、既存送電網の利用は当面困難
～再生可能エネルギー事業が停滞（豊富な自然資源の未活用）

当行の取り組み

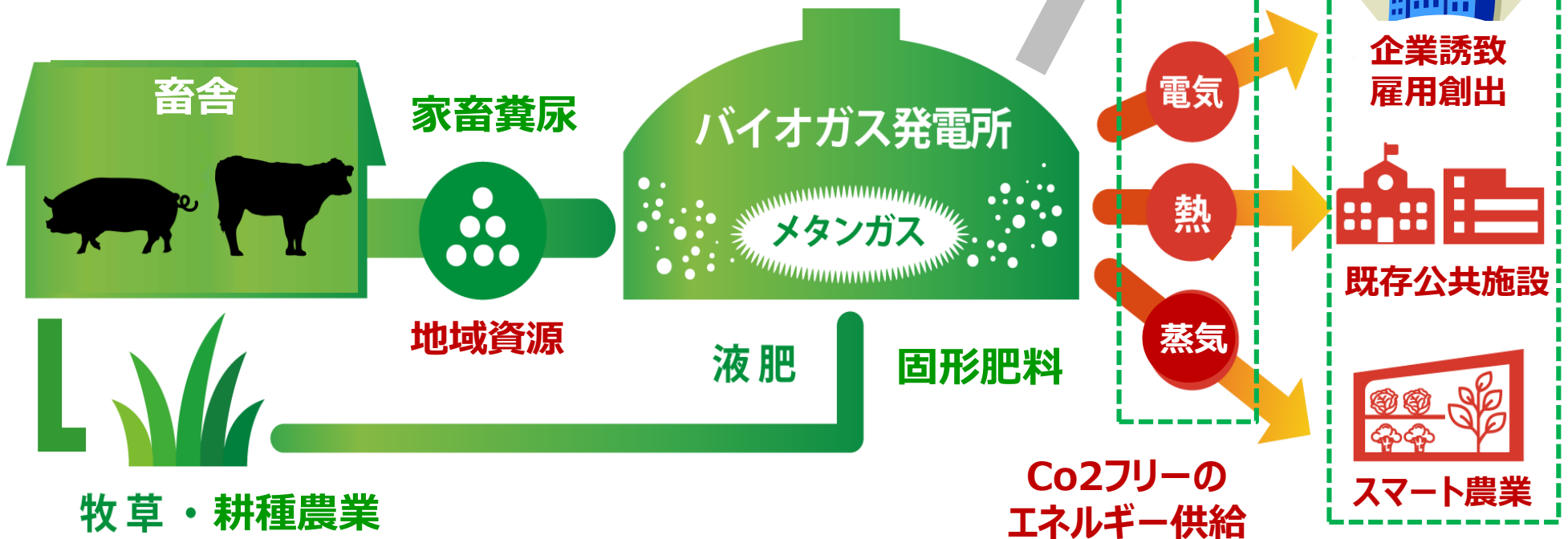
地域内で電力消費できる「仕組みの構築」が解決策のひとつとならないか
～自営線の敷設、電力需要の創出、等による「出口の創出」を図る

「エネルギーの地産地消」と「地域活性化」実現に向けた取り組み
（ESG金融促進事業における「肝付町モデル」の検討）

4. ESG金融促進事業（肝付町モデル概要）

- ◇ 畜産糞尿を「地域資源」として活用したバイオガス発電事業。電力・蒸気・熱エネルギーを地域一帯に供給するもの【エネルギーの地産地消】
- ◇ 今後ニーズが高まる、「Co2フリーのエネルギー」を求める企業の誘致ならびに雇用創出等により、経済循環の創出を図るもの【地域活性化】

持続可能な地域社会の実現に向けた取り組み



4. ESG金融促進事業（当行の検討課題）

Step 1 P J 単体での事業性（収支）評価

P J 単体（本件は売電事業）での事業性（収支）評価
※金融機関による**従来**の評価

Step 2 事業連結での事業性（収支）評価

P J + 他事業（収益施設併設等）での収支評価
※金融機関による**従来**の評価

Step 3 地域全体での事業性（収支）評価

上記のみでなく、地域への「**ポジティブ・ネガティブインパクト**」を数値化し「**広義の収支**」として地域全体での事業性（収支）を評価 ※ただし、**財務的な収支**で測れる効果

Step 4 環境・社会的効果での事業性評価

財務的な収支では測れないインパクト（非財務情報）を加味したプロジェクト（及び事業連結）での事業性を評価

財務情報
(事業のPL)

財務情報
(連結のPL)

財務情報
(事業 + 連結 +
地域全体)

財務情報
+
非財務情報

「非財務情報」=「ESG要素（環境・社会的効果）」の組み入れ
⇒金融機関の「ESG金融」への移行（融資判断、財務分析方法の進化）

5. 最後に

地域金融機関の使命 = 地域のために、お客様のために

これまで以上に「地域課題の解決」に取り組む

鹿児島銀行は「ESG金融の実践」による地域課題の解決を通じて、SDGsの達成を図り、「持続可能な地域社会の実現」を目指してまいります



しろどんファミリー
- SHIRODON FAMILY -



しろどん
-SHIRODON-

ご清聴ありがとうございました



くろどん
-KURODON-